

97 明治12年2月2日 菊池長閑宛

第二号 明十二  
二月二日 (長閑注記)

先月中旬尊影河上氏より達し忝く拝見セリ三年前拝顔之時とハ  
余り変らせられす先以安心之至私も近々写真差上へくと存す多  
分次便にハ出来上り可申今年に成てより雪度々降寒さも余程敵  
敷氷の豊年と思はる然し氣候ハ不順勝なり一日の中に秋空春  
(抹消)景色冬模様のある事儘有之病人杯ハ至て凌難し私ハ不相替  
(被カ)豆々敷風邪さへも煩すに暮居ハ安心□遊たし県会議員撰挙の模  
様ハ如何なるや承りたし是ハ丸て新き事なれハ初より甘行れぬ  
ハ素よりなり然し一県中の人々か其為になる様心配する仕掛な  
れハ皆信切(マツ)に働ねハ成ぬ次第様(マツ)に働ねハ県会も其為にならぬ  
のミならず却て害になるかも知ねハ互に譲合すに銘々の務と思  
て心配ありたきものなり家を持日にハ能治(抹消)(めね)るハ家族の務  
互に免れ合て家事を構はず随て家を治め兼るならハ寧ろ家を持

ぬハ優りなり今迄ハ何事も役人任せにて難義して収たる年貢を  
茶屋遊に遣れ様か自分の腹(マツ)に入られやふか年貢を納たる者ハ一  
言も云ふ事ならざりしを今てハ小言を云ふ事が出来る次第なれ  
ハ互の取締に宜き訳なり

尊父君

武夫拝

(長閑注記)

「三月十七日達シ日数四十四日也

同廿八日此方第三号ヲ以返事出し」